

海から届ける 写真展

現役の船員さんからの写真がいっぱい

昨年引き続き、有明客船ターミナルにて「海から届ける写真展」を開催します。
周辺の水域でも目にできる「内航船」にスポットをあてた写真展です。
今年は展示枚数をスケールアップ！
船員の方々が撮影した船と海の世界をお届けします。

10.23_水 → 11.29_金

@ 有明客船ターミナル

【主催】 東京都指定管理者 東京港埠頭株式会社、全日本内航船員の会



海から届ける写真展

有明客船ターミナル 写真展示会 vol.2 10.23^水~11.29^金

有明客船ターミナル周辺水域を行き来する「内航船」にスポットをあてました。

内航船の日、記念イベントの作品がターミナルにやってきた!

「ふと海を想う。島国の暮らしと内航船をイメージする日」、内航船の日を記念して都内の銭湯で毎年開催されている「海から届ける写真展」の作品が、今年も有明客船ターミナルでスケールアップして展示されます。

全国の内航船の船員のみなさんから届けられた、雄大な海と空、働く船や船員の写真の数々。島国日本の周りには、いつでも内航船が海を行き来して、私たちの生活を支えています。そんな「内航船」の活躍をどうぞご覧ください。



「内航船」ってなあに?

国内の航路だけを航行する船を内航船(ないこうせん)と言います。

海外と航路を結ぶ外航船と違い、内航船は船員が全て日本人。国内の物流に欠かせない存在です。

けれどいま、その日本人船員が減り続け、深刻な問題となっています。

心の航路でつながってみよう

内航船が全国に結ぶ航路。地域と地域が結ばれると、人と人との交流と深い歴史、文化も膨らんでいきます。

企画パネルに登場する航海士にゃんこ「カンパチ船長」は今もどこかの船で暮らしています。

海の向こうに内航船を感じてみましょう。



有明客船ターミナルのまわりには内航船がいっぱい

有明客船ターミナルの対岸には、東京と大阪、四国、山陽、北(南)九州など西日本を結ぶ中型の内航船が停泊します。

また、西側には、東京と沖縄、九州間を結ぶ8,000トンから1万トンを超える大型船、RORO船(ロールオン・ロールオフ船)が停泊します。これは、紙類や飲料、食料品などの生活関連物資のほか、自動車までを運ぶ大型船です。

南側には、旅客と貨物を一緒に輸送するフェリーが、東京~徳島~北九州間を毎週就航しています。

今日はどんな船が航行しているかな?

〔有明客船ターミナル〕

- ◆開館時間 9:00~18:00(年中無休)
- ◆料金 無料
- ◆アクセス <電車>ゆりかもめ「東京ビッグサイト」隣接
りんかい線「国際展示場」駅 徒歩約5分
<海上バス>「東京ビッグサイト発着所」隣接

※詳細は東京都観光汽船のホームページをご覧ください。

<http://www.tptc.co.jp/terminal/guide/ariake>

【主催】東京都指定管理者 東京港埠頭株式会社 / 全日本内航船員の会
【お問合せ】晴海客船ターミナル事務所：03-3536-8651 (9:00~17:00)

「内航船の日」と「海から届ける写真展」のはなし

内航船を好きな一般の方々が、船員たちとの交流を通じて、7月15日を「ナナ・イチ・ゴ」→「ナイコー」→「内航船の日」にしよう!と呼びかけ、2015年末、日本記念日協会によって正式に記念日として認定された「内航船の日」。今年で第4回目を迎えました。第1回目の記念日当日には、共同通信社のFAXニュースによって日本を離れている海外の船にも情報が報じられ、年々、twitterのハッシュタグ「#内航船の日」も盛り上がりを見せています。

「海から届ける写真展」は、毎年、東京・墨田区の銭湯「大黒湯」のロビーで7月15日から開催されている記念日イベント。大黒湯を飛び出してやって来た有明客船ターミナルでの写真展は第2回目となりました。本当は毎日が「内航船の日」です。

内航船の日
7.15 NAIKO